

1

エコドライブの背景

(1)地球温暖化問題

①温室効果メカニズム

太陽からの光は、地表面に届くと熱になって大気中に放出されます。二酸化炭素などの温室効果ガスは、この熱を一部吸収する役割があり、地球の気温を一定に保っています。温室効果ガスが増えると、吸収する熱が多くなり、大気がどんどん暖まっていく現象が起きます。これが地球温暖化です。

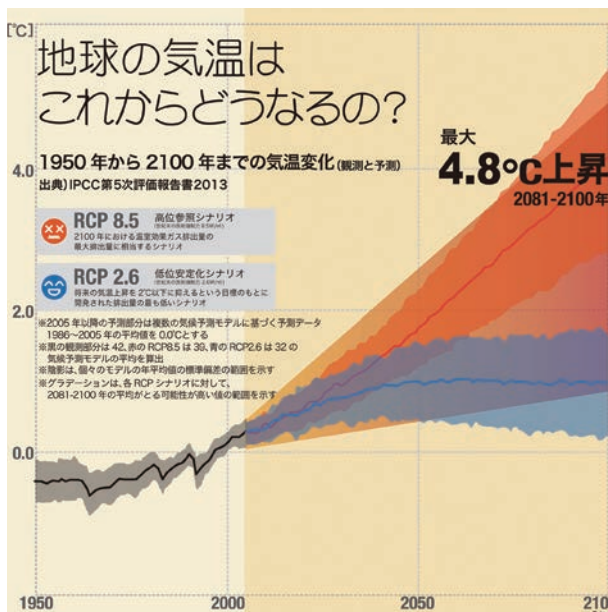


②地球温暖化の影響

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第5次評価報告書では、このまま地球温暖化が進むと、2100年の平均気温は最小で0.3度、最大で4.8度上昇すると予測しています。

地球温暖化が進むと、北極圏や南極圏の氷河が溶けて海面が上昇し、多くの土地が水没する可能性が出てきます。また、気候が変わることで自然や農業への影響が出るほか、災害や伝染病などが拡大して大きな被害をもたらすと考えられています。

1950年から2100年までの気温変化(観測と予測)



発生が予想される現象

- ・海面の上昇(2100年までに26~82cm)
- ・豪雨や渇水の増加
- ・植生の変化と食料生産の低下
- ・マラリア罹患者の増加他

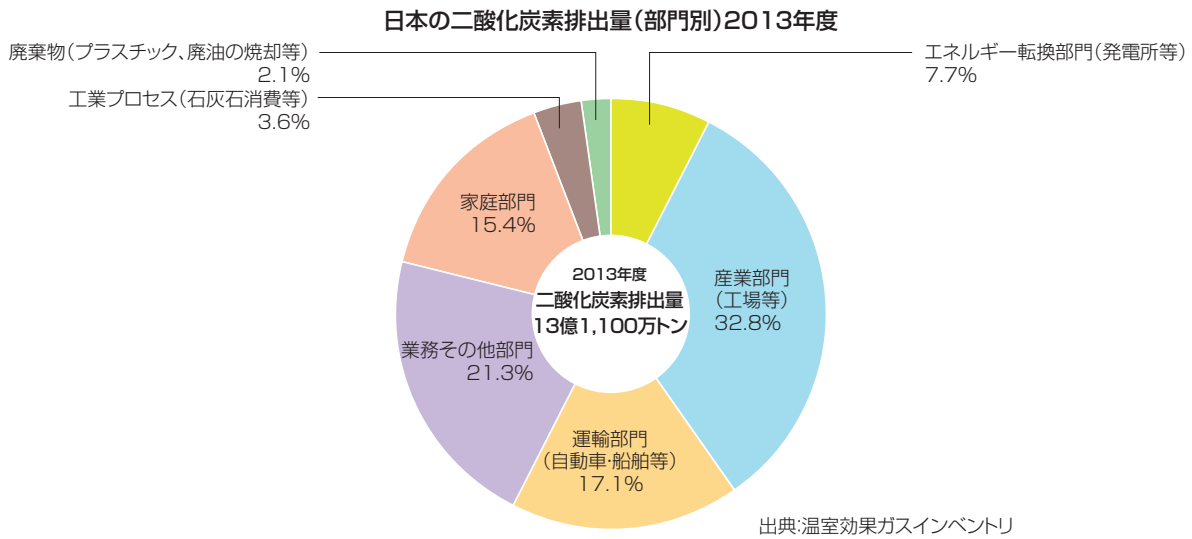
出典:IPCC第5次評価報告書
参考 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト
(<http://www.jccca.org/>)より

(2) 温室効果ガス削減への国際的取組みと日本の二酸化炭素排出量

地球温暖化防止のため、1992年ブラジルで開かれた「地球サミット」で気候変動枠組条約が締結され、1997年京都で開催された第3回締約国会議では、温室効果ガスの削減目標が織り込まれた「京都議定書」が採択されました。

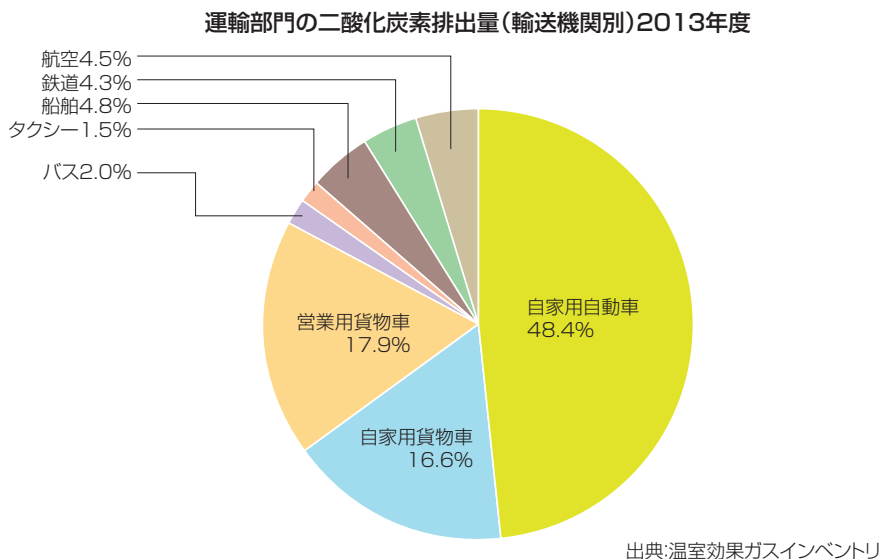
京都議定書では、日本は2008～2012年度の間、1990年度（基準年）に比べて二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を6%削減することになり、様々な取組の結果8.4%の削減を成し遂げ目標を達成しました。

現在、我が国は、東日本大震災の影響で火力発電への依存が高まり、温室効果ガスの排出量は増加していますが、「2030年までに2013年比26%削減する」新たな目標を表明しています。



(3) 運輸部門の二酸化炭素排出量の現状

運輸部門の二酸化炭素排出量の86%が自動車から排出されており、自家用乗用車から排出される割合が48%と全体の約半分を占めています。



(4) エコドライブの役割

エコドライブは、「京都議定書目標達成計画」において「環境に配慮した自動車使用の促進」の施策として位置づけられ、京都議定書が終了した現在においても、国民の誰もが手軽に実施できる地球温暖化防止策として取組まれています。

この活動は、「エコドライブ普及連絡会」（警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省で構成）を中心に関係団体が協力して積極的に推進しており、具体的な取組項目の『エコドライブ10のすすめ』（24頁参照）を策定するとともに、アクションプランで様々な取組みを実施しています。

（アクションプラン取組項目）

- ・エコドライブの普及・啓発活動
- ・エコドライブ支援装置等の普及促進
- ・地方公共団体及び関係団体との横断的取組み 他

(5) エコドライブの効果

エコドライブは、CO₂の排出量を削減することで環境に優しいだけでなく、燃料の節約による経済効果や、穏やかに運転することによる交通事故の低減など、多様な効果が確認されています。

